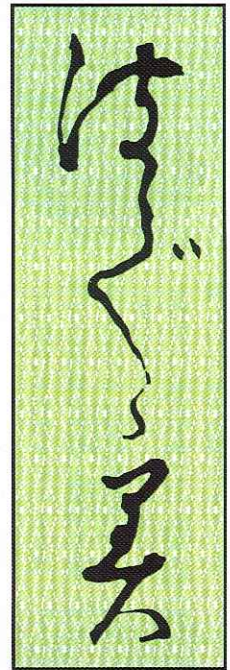


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江西1丁目4323番25 いづみ印刷株式会社



創り出そう 新たな展開を

第5回 全単位PTA会長 研修会

8月20日(土)、第5回全単位PTA会長研修会が、大分県教育会館にて開催された。県内PTAより241名が出席。テーマは「単P会長として見えてきた子どもの教育について」愛することも大切にしたい。おとなの思い。全体研修会や分散会研修、全体報告会と充実した会となった。

単P会長として 地域の実情に即した活動に

年に一度、県下各地域の単P会長が一堂に会し、研修活動することが開催の目的。同じ立場で互いに意見や情報交換をし、単P会長としての資質の向上や問題解決を図るための糸口をつかむ機会になっている。

大分県PTA連合会全単位PTA会長研修会



あいさつする富永県P会長。研修会に際し、富永大輔県P会長は「単P会長の思いや悩みなど、かかえているものは大きい。分散会で意見を聞き、思いを共有することで、いろいろな考えを参考にし、活動の幅を広げてほしい。みなさんの協力を得ながら何かあったと言えらるものを持つて帰り、明日からのP活動に役立ててもらいたい」とあいさつした。また「保護者心得六箇条」にも触れ、私たち自身も

子どもの手本となるような姿を見せていこう、と話した。

全体研修

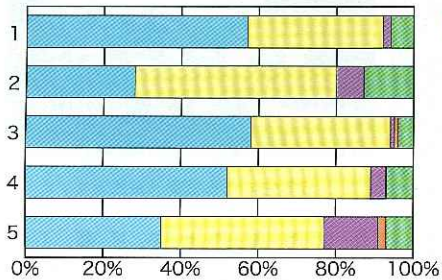
はじめに「ここは命の星」推進事業としての実践発表が行なわれた。(3面掲載) 続いて、ミュージカル「PTAも捨てたもんじゃない」の公演。



熱演する高校生たち

これは県PTA連合会理事の加来桂一氏が脚本を手掛け、中津市出身の女優玄海椿氏が演出したもの。いじめ問題を中心に据え、それにまつわるP活動の問題を提起して

単P会長研修会 アンケート結果 (平成23年度)



番号	質問	全く良くなかった	あまり良くなかったと思う	まあまあ良かったと思う	とても良かったと思う	何ともいえない・分らない
1	参加した感想	57%	35%	2%	0%	6%
2	全体研修会・ここは命の星事業発表会	28%	52%	7%	0%	13%
3	全体研修会・ミュージカル鑑賞	58%	36%	1%	1%	4%
4	分散会研修・グループ討議	52%	37%	4%	0%	7%
5	分散会研修・グループ討議報告会	35%	42%	14%	2%	7%

(回収率56%)

いろいろな地域や学校の事情を知る事ができ、よい刺激になった。全県から会長が集まり語り合えるのは良い事。PTAの意義を考えさせられ、その良さや必要性を再認識できた。分散会でのグループ討議はいろいろな意見が聴ける場なので続けてほしい。もう少し時間があれば、学校規模や都市などの環境に配慮してグループ分けできれば共通した話題で話せる。単P会長の任期を考えるともう少し早めの開催がよい。

「このままでは指先が退化する」と憂慮している。最近「文字を書くのではなく指先で打つ時世」になった。忙しく指を動かせば指先の巧緻性訓練になるかもと納得してたら、直近ではケータイの表面を接触するだけになり、口でも喋らなくなった。手で書くことは書き手の心情が字面に表われ、又相手と向き合って話すことにより表情から双方の心象が見取れるのに。向机の人に「あの件どうなった?」「メール入れといたけど!!」なんて笑えないような実話▼ところが時代遅れの手書きが先端機器に勝った。①東日本大震災の時、地元紙の日日新聞社は使命は速報にありと社員一丸となって、直後から手書きの新聞を作り全国、世界に発信した。緊急事態では、便利なパソコンも役立たない。②気仙沼発「ファイト新聞」だ。3%の創刊の小学生達の手書き壁新聞だ。避難所の人々を勇気づけた。活字や写真報道に先駆けた。③国家的プロジェクトの事業仕分け現場で活躍したのは、白板に手書き表示だった。超能力機器も調達できなかったら。とつぎの時は手だ。人の力だ▼53回県書協研究会幹事大会の八坂小六年生は、筆墨紙の歴史、書写学習のポイントを模造紙に手書きで発表してあった。先生方も板書していただいていた。是非児童生徒に書いて見せて欲しい。%の全国書研京都大会の提案授業でも同様の思いを持った▼書いて調べ、ことにより筆順を覚え、調べ、手で書くことにより指の巧緻性や確かな観察力と書写力を身に付け、未知の言葉を知るのだと思う。これは新指導要領のめざす「文化を知り人間力を高めること」に即応している。

研修分散会

午後からは、12会場に分かれグループ討議する分散会研修が行われた。今回、特に印象深く感じられた分散会を2グループ取り上げてみた。第1グループは15名の単P会長が参加し、会長になった動機、活動内容や現状での問題点など、自己紹介を兼ねて発表。「役員になって学校や子どもがよく見えてきた」「誰でも役員になれる育友会を目指している」と活動への熱い思いや工夫が語られた。第4グループは22名が参加。統合問題と父親部会について意見が交わされた。統合せざるを得ない状況で、大人

報告会

会場を移し、全体報告が行われた。各グループより代表2名が発表。どの分散会からも単P会長として熱心に取り組んでいる。▼子どもの家庭学習にどう関わるのか。PTAとして家庭学習に取り組む方法は難しい。単位Pや都市P連で直面する課題は多いが、単P会長として、保護者や学校、地域の方々をつなぎ、楽しめる活動をしたという思いが共有できる会となった。



問題点や意見を発表



思いを共有できた分散会研修

組んでいる様子が見えなかった。《内容は次の通り》(以下、抜粋)▼会長は周りに支えられている実感。自分自身が育てられている。▼役員の引き受け手がいない。▼全保護者に呼びかけ、学習サポートをしてもらっている。▼地域の先輩方のゲストティーチャーの指導による学習で、仕事や目標が身近で理解できる。▼家庭訪問をやめ学校での個人面談(年2回)を実施。▼PTA行事が平日の昼間で父親の参加が少ない。▼父親部会で市内の祭りに出店。売上金で学校の備品を買ったり劇団を呼んだりしている。▼統廃合はメリット・デメリットを考え、吸収合併ではなく対等に進めていく事も大切。▼統合前は不安もあったが、「子どもの世界が広がって統合して良かった」と保護者も喜んでる。

研心北

「このままでは指先が退化する」と憂慮している。最近「文字を書くのではなく指先で打つ時世」になった。忙しく指を動かせば指先の巧緻性訓練になるかもと納得してたら、直近ではケータイの表面を接触するだけになり、口でも喋らなくなった。手で書くことは書き手の心情が字面に表われ、又相手と向き合って話すことにより表情から双方の心象が見取れるのに。向机の人に「あの件どうなった?」「メール入れといたけど!!」なんて笑えないような実話▼ところが時代遅れの手書きが先端機器に勝った。①東日本大震災の時、地元紙の日日新聞社は使命は速報にありと社員一丸となって、直後から手書きの新聞を作り全国、世界に発信した。緊急事態では、便利なパソコンも役立たない。②気仙沼発「ファイト新聞」だ。3%の創刊の小学生達の手書き壁新聞だ。避難所の人々を勇気づけた。活字や写真報道に先駆けた。③国家的プロジェクトの事業仕分け現場で活躍したのは、白板に手書き表示だった。超能力機器も調達できなかったら。とつぎの時は手だ。人の力だ▼53回県書協研究会幹事大会の八坂小六年生は、筆墨紙の歴史、書写学習のポイントを模造紙に手書きで発表してあった。先生方も板書していただいていた。是非児童生徒に書いて見せて欲しい。%の全国書研京都大会の提案授業でも同様の思いを持った▼書いて調べ、ことにより筆順を覚え、調べ、手で書くことにより指の巧緻性や確かな観察力と書写力を身に付け、未知の言葉を知るのだと思う。これは新指導要領のめざす「文化を知り人間力を高めること」に即応している。

大分県PTA連合会指定研究発表会

心は体験活動から

平成22・23年度の2年間にわたり県PTA連合会指定研究に取り組んできた3校のPTAそれぞれが公開発表を行った。

家庭・学校・地域が連携して子どもたちを見守りながら、ふれあい・つながりのある地域の特色を生かした活動の発表となった。

PTA指定研究発表は、昭和24年県教委が始めたのをきっかけに昭和31年から県PTAと共催で引き継がれており、他県にはない大分県P連の特色ある事業である。

現在は大分市より1単位PTAと、県南・県北の各都市より2単位PTAを指定、2年間の研究の成果を公開発表し、今後のPTA活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

杵築市立 杵築小学校PTA 11月12日

豊かな体験は達人の技から



ちよっと持っていてね (杵築小P)

前中の公開活動では、学年ごとにさまざまな活動を行った。ゲストティーチャーと呼ばれる地域の達人を指導者として招き、専門的な話を聞きながら地域の歴史や産業を学んでいた。

1年生は「杵築ひいなめぐり」に飾るおひなさまとリースを親子で作った。おひなさまは松ぼっくりで、リースは夏に自分たちで育てたあさがおのつるを使って作成し、飾りつけを行った。親子で協力しながら、一つのものを作る楽しさを味わっていた。

2年生は、ゲストティーチャーの指導のもと竹のおもちゃ作り。日頃使うことのない針金や金づちを手伝い、苦労しながらもあちこちで「でき」と歓声が上がった。

3年生は、食に関わる仕事をする人々について調べ発表を行った。また、4年生は地元で生息するカブトガニについて調べ、カブトガニを守ることと地元の環境を守ることとのつながりを学習した。どちらの学年も、自らの足で積極的に地域の人々と関わり、調べていた。

5年生は、海産物についての発表の後、しらすのおにぎりを作り参加者にふるまった。その後、自分たちで握ったおにぎりを嬉しそうに味見していた。お手伝いをしていた母親は「普段はしないけれど家でも作らせたい」と話していた。

6年生は、学校周辺にある杵築特有の坂について調べ発表を行った。ゲストティーチャーの話にも聞き入り質問する姿も見ることができた。

午後は、6年生による合奏と杵築の町紹介のアトラクションの後、各学年の代表と専門部による実践活動報告が行われた。



6年生による合奏「威風堂々」

子どもにも多くの体験を

田代哲也教育庁社会教育課社会教育主事は「自分たちで調べたことを誰かに伝えたいという子どもたちの意欲とまっすぐな目が印象的だった。PTAの活動というのは、子どももあってこそその活動。家庭・学校・地域と3つの視点で子どもたちを見守り、より多くの体験を」と指導講評した。

先日、職場体験学習がありまして、ほんのりとした生活ノートには、ほとんど書いてこない子どもたちが、どんどん書きます。あつという間に終わりの行まで感謝のことが埋め尽くされていきました。

スピーチが苦手、作文が苦手な子どもたちと書かれています。聞いてほしいこと、心に響く感動があると、いくらでも書くことができ、話すこともできます。そんな感動や心に残る体験をこれからできるだけ多く味わってほしいと強く願っています。そして、そのような体験をしっかりと仕組んでいきたいと思えます。

豊後高田市立田染中学校 教諭 若林 美奈子

心に残る体験を

終わりに、お礼の手紙を書くことになりました。生活ノートには、ほとんど書いてこない子どもたちが、どんどん書きます。あつという間に終わりの行まで感謝のことが埋め尽くされていきました。

スピーチが苦手、作文が苦手な子どもたちと書かれています。聞いてほしいこと、心に響く感動があると、いくらでも書くことができ、話すこともできます。そんな感動や心に残る体験をこれからできるだけ多く味わってほしいと強く願っています。そして、そのような体験をしっかりと仕組んでいきたいと思えます。

豊後高田市立田染中学校 教諭 若林 美奈子

杵築市立杵築小学校PTA (児童数514名、会員数393名)は「人とかがわり、豊かに学びあう杵築つ子の育成」家庭・学校・地域と連携し、杵築のよさや特色を生かした取組を通して、「を研究主題に公開発表を行った。

地域とともに 学ぶ活動

江戸時代の藩校「学習館」跡に建てられ、今年創立137周年を迎えた杵築小学校。学校の裏手からは当時の「藩校の門」へとつながり、周囲には時代の面影をそのまま残す武家屋敷や土壁、商家が連なっている。

子どもたちに、この特色ある校区のよさを学び、知ってほしいという主旨のもと、午



感謝の会にて全校で合唱 (上北小P)

白杵市立上北小学校PTA (児童数70名、会員数56名)は「上北の幸」を生かしながら「かじこさ」「あたたかさ」「つよさ」を持つ上北つ子を育てるPTA活動「ふれあい・つながり」を大切に「を研究主題に公開発表を行った。

午前中の公開活動では、三世代交流ふれあい祭りとして「もちつき」と「感謝の会」を行った。

白杵市立 上北小学校PTA 11月19日

田んぼ活動から喜び体験を

今年21年目を迎える恒例行事は当日雨と重なり、いつもと違う状況の中、父親部が主に餅をついた。子どもたちは1年〜6年までの縦割り班5班に分かれ、地域の方や保護者と一緒丸めた。参加した保護者は「子どもたちが楽しみにしていた餅つきができて、意欲化につなげる活動ができるようにするために、写真や紙芝居を使ってわかりやすく説明するものである。児童代表は「今年もたくさんのお米を収穫することができた。達成感があり、みんなで協力する大切さを学んだ。自慢の田んぼ活動をこれからも続けたい」と話した。



地域の方と餅丸め

午後からの研究発表では、まず上北の特色ある田んぼ活動について報告した。「20年ほど前から地域の方に水田を借りて田んぼ活動に取り組んでいる。子どもたちに米作りの大変さと収穫の喜び、人とのつながり、協力して活動する喜びなどを感じ取れるようになってい

本物体験の 取り組み

馬場尚登県教育庁社会教育課社会教育主事は「取り組みにストーリー性があり、子どもたちが地域の体験をしていることはとてもすばらしく感心した。また、この活動が伝統として息づいていることが何よりの強み。体験活動によって、心が豊かになり、その後にもつながる。子どもたちにたくさん経験をしてほしい」と指導講評した。

平成22・23年度

豊かな

大分市立東陽中学校PTA 11月27日 地域に学ぶ・地域と学ぶ

大分市立東陽中学校PTA (生徒数407名、会員数369名)は、「美しい大野川になれ、地域とふれあい地域を知る活動を通して」を研究主題に公開発表を行った。

ふれあい 思いを伝える

午前中の公開活動では、全校生徒が12講座16箇所に分かれ「ふれあい講座」を行った。地域に住む方々から直接「教え」をもらう機会を持ち、

地域への思いを受け取り、地域に生きる自覚を得てもらおうという願いが込められている。

竹工作は、川添地区地域の方々の指導のもと竹とんぼと竹笛を作った。生徒たちは和やかな雰囲気の中、わからない所を積極的に質問していた。出来上がった時は「難しかったがとても楽しかった」と話したり、竹とんぼを何度も飛ばしたり、竹笛を鳴らしている様子が見られた。見学していた



竹とんぼ・竹笛を作る生徒

保護者は「こういう体験を多くさせたい」と話した。「南の渡り拍子」は太鼓と笛を使って祭りのお囃子を演奏する講座。高田南地区に伝わる伝統文化で、地域の方の指導のもと、練習し演奏した。地域の方は「地区に子どもが少なく後継者がいないので、定期的に中学生を指導している」と語った。また女子生徒は「難しいがこれからは続けてやってみよう」と話した。

書道の講座では、大分高校書道部による書道教室を行った。どの作品も初めて書いたとは思えないくらい作品に仕上がった。書道部員は「一時間の中で上達が早く、とてもびっくりした」と話し、女子生徒は「楽しかった。優しく教えてくれて嬉しかった」と笑顔で話した。

その他の講座も真剣に取り組み、地域とのふれあいやつながりのある充実した活動となった。

地域を 巻き込んだ活動

午後からは、まず生徒によるアトラクション。地域の文化を継承しようと和太鼓演奏にも取り組んでおり、地元川添地区にある菜の花クラブから太鼓を借りて、地域祭りのお囃子や生徒達で創作した曲を演奏した。続いて全校生徒による合唱を披露した。全体発表では、各専門部と様々な取り組みについて報告した。



力強い和太鼓演奏

「地域の大人たちが、日頃話す機会が少ない中学生との交流を目的にした『中学生と語る会』。今年で10年目になり、中学生と地域のお年寄りが真実な交流の場になっている」と発表。

「こころは命の星」推進事業 活動報告(6) いのちを感じる活動を

家庭と学校が連携した食育

竹田市立久住小学校PTA

井昭雄P会長 児童数 76名

「いきいき元気いっぱい住つ子」の育成を目指すため、給食試食会や広報紙による食に対する呼びかけなどの食育活動を行ってきた。この食育活動を、さらに推進していくため、新たに、平成19・20年度は、親子や地域の方と食の



おいしく焼けるかな

食とは何か 家庭で活かす食育

PTAでは、毎年6月の日曜学校で教育講演会を実施している。食の大切さを会員と共に考えあう機会ととらえた。平成19年度「食は心と体の元気のもと」という演題



腹話術を交えた講演会

で、20年度は「聞いてハッピー、してみようラッキー食育はみなさんの出番です」という演題での講演会を行った。「とても興味をひく内容だった」「親子で食の大切さを実感できた」などの声がかかれた。毎年1月に行う親子ふれあい活動では、各学年ごとに手づくりおやつに取り組み、だんご汁やピザ、もちつきなどを行った。家庭でも活かせるようPTA懇談会や広

命に対する思いやりの心を

日田市立北部中学校教育友会
梅山 博之P会長 生徒数 301名



いざという時のために

報紙などで広く会員へと呼びかけ、食に対する意識づけを行った。井昭雄P会長は「従来から取り組んでいることに食育を組みこむことで食の大切さが

認識されるようになった。しかし、食が実際に家庭で活かされているかなどの点で、今後取り組みを継続していく必要があると考えている」と語った。

命との関わりを 見つめて



命の大切さを語る神田岳委氏

平成21年11月、福岡市防災センターへの研修旅行を実施。火災や地震などの疑似体験や消火器の使用方法、震災のビデオ視聴などを行うことで子どもたちをはじめとした自らの命を守るための術や大切さを学ぶことができた。12月には、九州アフリカンサファリの神田岳委氏を迎え「どうぶつとともに生きる」と題し、講演会を開催した。長年の専門獣医師として体験評だった。動物との関わりか

「子どもが本を読まなくなつた」と言われて久しい。私達親世代も子どもの頃「マンガばかり読んでなくて、少しはまともな本を読みなさい」と親から言われたものである。それでも、マンガを読んでいる分、活字に触れる機会は多かった。しかしながら、最近は、ほとんどの子どもが携帯型ゲーム機で、好き勝手に遊んでいる。「ゲームばっかりして!」あちこちから親の嘆き声が聞こえる。ところで、家庭でゲーム

子どもと本を読む

遊びをしない環境をつくっているだろうか。テレビも消して家族で今日あった出来事を話し、その後それぞれ気に入った本を読むのはいかがだろうか。マンガでもいいではないか。互いに読んだ本を話題に会話を増やす。活字に触れる機会を増やす。一石二鳥である。家での過ごし方を提案するの大切な親の役目だ。テレビやゲームに振り回されず、親子でゆったり時間を過ごそう。新たな一面がみつけられるかもしれない。日出町PTA連合会 母親代表 池田 陽子

ネットワーク報
16
村PTA
(16は県下部市等PTA連の数)

宇佐市 会員数 4,153人
学校数 31校

熱い気持ちを 結び合わせる
宇佐市PTA連合協議会



支援活動の現状報告をする川原尚行氏

「心をつなげよう！『夢、希望、そして未来へ』を大会スローガンに第56回九州ブロックPTA研究大会北九州市大会が10月22・23日に開催。九州各県より約9700名（大分県からは541名）が参加した。1日目は10の会場に分かれて分科会が行われた。大分県は第1・3分科会で提言発表を行った。

第56回九州ブロックPTA研究大会
北九州市大会

第1分科会 組織・運営
別府市立

朝日中学校PTA「参加『時代』にあわせた『PTA組織と運営』を考える」をテーマに山本美咲P会長が提言発表。「PTA組織の枠をこえた活動により、地域との関わりが生まれてきた絆プロジェクト。さらに絆を拓くよう行政とも連携。行政側にヒントやプログラムをもらい朝日中Pが行事を主催した。『大学生との集習会』をはじめ『朝日村フェスタ2011』などを開催し好評を得た。保護者や教職員、地域の方がより一体となる事ができた」と報告した。

第3分科会 学習活動
別府市立

西小学校PTA「社会環境（ケータイ社会）の変化に対応できるPTA活動」子ども社会に置いて行かないためのPTA活動」をテーマに後藤智P会長が提言発表。「携帯電話の保有数を調査し研修会を開催。親子の関わり方について多数の意見が出た。その中でも、日々の親子の絆を深める取り組みを大切にしたいと、家庭・学校・地域と連携した笑顔あふれる活動を進めている。あいさつ運動、バザー、ふれあい運動会や交流会を通じ楽しみながら次の活動へ繋げたい」と報告。

新連合会に向けて

来年四月一日より、宇佐市PTA連合協議会は完全合併し、新宇佐市PTA連合会として歩きます。「子ども育ては『親育ち』共に学ぼうPTA」を合言葉に、各地域の特色を生かしながら、いい親育ちをしていきたいと考えています。

「社会環境（ケータイ社会）の変化に対応できるPTA活動」子ども社会に置いて行かないためのPTA活動」をテーマに後藤智P会長が提言発表。「携帯電話の保有数を調査し研修会を開催。親子の関わり方について多数の意見が出た。その中でも、日々の親子の絆を深める取り組みを大切にしたいと、家庭・学校・地域と連携した笑顔あふれる活動を進めている。あいさつ運動、バザー、ふれあい運動会や交流会を通じ楽しみながら次の活動へ繋げたい」と報告。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。



質問に丁寧に答える山本会長



提言する後藤会長

「社会環境（ケータイ社会）の変化に対応できるPTA活動」子ども社会に置いて行かないためのPTA活動」をテーマに後藤智P会長が提言発表。「携帯電話の保有数を調査し研修会を開催。親子の関わり方について多数の意見が出た。その中でも、日々の親子の絆を深める取り組みを大切にしたいと、家庭・学校・地域と連携した笑顔あふれる活動を進めている。あいさつ運動、バザー、ふれあい運動会や交流会を通じ楽しみながら次の活動へ繋げたい」と報告。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

「甘える」親子関係が続いていなかっただけではないかと思わせられました。「甘える」ー「甘えさせる」関係を続けることが、特に小さい子どもの頃には、安心感や信頼感を培うことに結びつくと言われています。過保護に通じず、見通しを持って甘えさせ方が考えられないでしょうか。彼女は、今、成人の少し前の年令だと思えます。どこかで、自分らしく頑張ってもらいたいと願っています。

みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

き込んだ活動を継続してほしい」と講評した。2日目の全体会では、NPO法人ロシナンテス理事長の川原尚行氏が「君の笑顔がみんなを幸せにする」と題し講演。スーダンと東日本大震災での活動の様子を映像を交えて紹介した。子ども達の希望や笑顔が大人を引っ張ると感じたことを話しながら大人へのメッセージとして「人にはたぐさんの役割がありできる事がある。役割が大きくてもいばることなく小さくても卑下することなく認め合おう。それぞれの立場で自分のできる事をしよう」と語った。最後に次期開催地佐賀県にバトンタッチし大会は幕を閉じた。

みんなが がんがえる コーナー
反抗期 どう接したらいいの？②
甘え心の貯え

以前、目に焼きついていた「さんまのからくりテレビ」のシーンが思い起こされてきます。小学5年生の女の子の話。「私が、今、気をつけていることは、父と母の機嫌をとることです」と。刈り取られた田んぼと広がる青空の風景には見入りませんが、沈んだ声とのアンバランスな感じが気になっていました。

親の言い分を素直に受け入れられたり、「ごめんさい」と謝ったりする日々が続いていたのでしようか。わずかに数秒の映像では、詳細を知ることはできませんが

「甘える」親子関係が続いていなかっただけではないかと思わせられました。「甘える」ー「甘えさせる」関係を続けることが、特に小さい子どもの頃には、安心感や信頼感を培うことに結びつくと言われています。過保護に通じず、見通しを持って甘えさせ方が考えられないでしょうか。彼女は、今、成人の少し前の年令だと思えます。どこかで、自分らしく頑張ってもらいたいと願っています。

みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一



「mixさんどS」によるコンサートの様子

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。



講演する大林宣彦氏

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

両院P連は母親部会による「お父さんのための子育て講座」、地域をあげての「小中高一貫教育フォーラム」、がメインの活動です。尚、指導者研修会は、平成十九年から合同で開催をしています。今年度旧宇佐市P連は、創立四十周年を迎え、また、旧宇佐市P連として最後の年でもあることから、九月三日に『記念教育講演会』を開催しました。内容は、平成十一年に子どもたちの健全育成を願い、糸口小学校の保護者が中心となつて「学校行事に父親も積極的にかかわって行きたい」との思いから結成されたバンド「mixさんどS」のコンサートです。オリジナル曲は、子どもたちや親からの詩を募って曲をつけたもので、今回、千人を超す会員や子どもたちに温かいたくさんの感動を与えてくれました。

おめでとうございます
—平成23年度 優良PTA功労者表彰—

文部科学大臣表彰 (以下敬称略)
〈団体〉 犬飼小学校PTA (豊後大野市)
日本PTA会長表彰
〈団体〉 日岡小学校愛育会 (大分市)
長洲中学校PTA (宇佐市)
〈個人〉 小坂 定 (臼杵市)

九州ブロックPTA会長表彰
〈団体〉 小楠小学校PTA (中津市)
中津中学校PTA (中津市)
〈個人〉 小坂 定 (臼杵市)
中野 恭次 (津久見市)

第20回県PTA研究大会 佐伯市大会
平成24年1月29日(日) 佐伯文化会館 他
・研究主題 いつも子どもを「まんなか」に 夢と希望と愛を求めて

MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心
GK
〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 www.ms-ins.com

編集後記
▼つらい状況の中でも人を幸せにできる子どもの笑顔。その笑顔を守るの大人の役割。命と食のつながりと大切さ。命の意味と素晴らしさを親子で今一度考える機会を。▼単P会長の意見交換。熱い思いが伝わってきました。▼無邪気な子どもの姿に感動。ふれあいの大切さを実感。